

第2回「確かな学力育成プラン」検討委員会 議事録

- ◆日 時 平成28年7月20日(水曜日) 午後3時30分～午後5時30分
- ◆場 所 仙台市役所上杉分庁舎 10階 教育局第2会議室
- ◆出席委員

氏名(敬称略)	所属 職名	備考
荒井 崇	東北大学大学院教授	
板垣 信哉	宮城教育大学教授	委員長
大泉 晶子	仙台市PTA協議会 監事	
大草 芳江	(有) FIELD AND NETWORK 取締役	
亀倉 靖宏	仙台市立上杉山中学校長	
今野 和賀子	仙台市立錦ヶ丘小学校長	副委員長
佐々木 守世	(株) ホームセレクト 代表取締役	
針生 真由美	仙台市PTA協議会 副会長	
宮本 真由巳	住吉台中学校区学校支援地域本部 SV	
杉山 勝真	仙台市教育委員会学校教育部長	
今野 孝一	仙台市教育委員会学校教育部参事	
猪股 亮文	仙台市教育委員会教育指導課長	
堤 祐子	仙台市教育センター所長	
佐藤 淳一	仙台市教育委員会学びの連携推進室長	

- ◆傍 聴 4名
- ◆報道関係 なし
- ◆配布資料

・平成28年度仙台市標準学力検査、仙台市生活・学習状況調査結果の概要について

◆会議の概要

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 報告(進行:委員長)
 - (1) 事務局から
 - ・第2回会議は、事務局からの報告が中心となり、次回から新プラン作成に向けた協議となる。
 - ・新プラン作成が前倒しとなり、平成29年10月までに作成となる。
 - (2) 平成28年度仙台市標準学力検査、仙台市生活・学習状況調査結果の概要について(事務局)(質疑等)
 - ・(大草委員)生活・学習状況調査結果の増加傾向の要因は、
…(事務局)いじめ防止等の対策が一因と考えられる。
 - ・(佐藤委員)学校が危機意識や課題もって対応にあたったと言える。
 - ・(今野委員)家庭教育や市P協の活動も含めて、一人一人が状況を見ながらしっかりと声掛けを続けているだろうと推測している。
 - ・(宮本委員)校長が自己肯定感の話をするところがある。中学校でボランティア活動をすることで、小学生が中学生にあこがれをもったり、中学生が自信をもったりする。
 - ・(委員長)1小1中などの学校の形態と学力との関係は。
…(佐藤委員)学校の形態と学力との関わりは見切れていない。
 - ・(大泉委員)増加傾向に驚いている。そういう意識でいるということが良い傾向と考える。子供たちは意外によく考えている。
 - ・(針生委員)地域・保護者・学校が連携しているところは良い環境だと思う。今度、地域防災訓練をする
が、地域で子供たちと関わりをもったり、地域の姿を見せたりする場面が増えている。子供
たちがそのような経験を積み、大人がサポートすることが大事。
 - ・(委員長)スマホの使用には、科学的に解明していく必要がありますね。
 - ・(今野委員)現行プランを作成するときは、スマホもLINEもなかった。LINEは、中学校では部活の
連絡、友達とのコミュニケーション手段となり、返事をしないと落ち着かず、集中力が落ち

ることにもつながっている。

- ・(佐々木委員) スマホは、中2・高2の我が子も現実によく使っている。「既読」については敏感になっていると感じる。しかし、家族とのコミュニケーションツールとして役立っている。次女は、テスト前はスマホを封印している。バランスをとった使い方が大事。
- ・(荒井委員) 5年生の我が子は、「Wii-U」のオンラインゲームをしているときがあり、長時間使う姿をしょっちゅう見る。今回、増加傾向が多かったが、正答率の伸びがそれほどではなかったのは、スマホの利用により効果が減殺されていることなのか。
…(事務局) 東北大学と連携した、学習意欲の科学的に関するプロジェクトにおいて、学力との相関を見ている。
- ・(今野委員) 全国学力・学習状況調査において、国語の結果がよく、現場の先生が地道にやっていることが表れている。中3の国語は、きちんと取り組めば伸びる。
- ・(亀倉委員) 人間関係に気を遣う子供が多い。気まづくなると、保健室に行き相談している子供も見られる。

(3) 現行プランの進捗・成果と課題(基礎資料集を基に)(事務局)
(質疑等)

- ・(佐藤委員) 現行の各施策の全体構成図は継続したい。
- ・(今野委員) やはり、人的な支援は学力向上に欠かせない。地域との連携は進み始めたばかり。今後もプランに位置付けるようになるのでは。
- ・(委員長) 昔は、就職後も2~3年は企業で人を育てるものだった。今は、大学で育てないといけなくなった。
- ・(堤委員) 学校現場では若手が増えている。学校内で研修を行うOJT(On the job Training: 職場内での学び合いや教え合い)の推進をしている。
- ・(副委員長) 新任が一人いる。校内研究等を通してカルチャーショックも受けたと思うが、伸びてきている。
- ・(猪股委員) 全体的に、スマホの使用、若手教員の増加について、変わってきたところと言える。学校の現状・環境も大きく変わってきており、それを踏まえた上で、精査しなければならない。
- ・(佐々木委員) OJTの話から、学校の研修を企業としてサポートできればと思った。協会や企業を先生・学校とマッチングできれば。
- ・(大草委員) 学校の先生が企業の研修を受けることも考えられる。先生はいろいろなところに接して、多様な考えを身に付けてほしい。
- ・(堤委員) 10年経験者研修では、社会体験活動を取り入れている。
- ・(委員長) 社会・理科が落ちていることが気がかり。興味・関心が高まれば他教科の学力向上になる。興味・関心は壁を乗り越えるエネルギーである。社会・理科が落ちていることは、長い目で見ると心配だ。
- ・(委員長) 私自身は、もともと理系・工学が専門であったが、英語を使う必要が生じて、英語を始めた経緯がある。いわゆる目的ではなく、手段として始めた。

(協議は次回以降)

4 閉会(次回:第3回 平成28年9月9日(水)午後3時30分~ 教育局第1会議室)

平成29年6月2日

署名委員

板垣信哉

